



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

The Y's Men's Club of Nagoya

CHARTERED AUGUST 27, 1947

c/o NAGOYA YMCA 2-7, HARUOKA, 1CHOUME CHIKUSA-KU, NAGOYA, 464-0848 JAPAN

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

主 題 (2025/2026)

2025 ~ 2026 3月号 (No949)

国 際 会 長 : Faith, Love, Action 「信念、愛、行動」 Together Stronger 「共に、より強く」

アジア太平洋地域会長 : Act now with faith and love! 「信念と愛を持って行動しよう!」

西 日 本 区 理 事 : 世界中の仲間と YYY ライフを楽しみましょう

中 部 部 長 : ワイズは YMCA とユースのために

名古屋クラブ会長 : 人のつながりはワイズの宝 新しいうねりを超えて



名古屋ワイズ
ホームページ



名古屋ワイズ
FACEBOOK

3月例会プログラム

と き : 2026年3月10日(火) 19:00 ~ 20:30

と ころ : 名古屋 YMCA

司 会 中井 信幸
開会宣言 会 長 加藤 明宏
ワイズソング
聖書朗読・祈祷 相馬 静香
プログラム 「導かれて・・・スズカトにて」
三枝 隆氏
(名古屋 YMCA スタッフ ; スズカト担当)

ハッピーバースディ・諸報告・ニコボックス
閉会宣言 会 長 加藤 明宏
食事の申し込みはこの所出席率が良いので、欠席の場合のみ連絡して下さい。欠席の方は3月5日(木)までに必ず川本書記まで連絡して下さい。無駄な食材や出費を出さないためにも 出欠連絡をよろしくお願いたします。

第 2 例 会

と き : 2026年3月16日(月) 19:00 ~ 20:30

と ころ : Zoom

プログラム : 今期プログラムと例会の持ち方、その他

会 長 加藤明宏 書 記 川本龍資
副 会 長 都築正和 会 計 平野実郎、谷川修
プリテン 渡辺真悟、戸田真二、平野実郎

4月号 原稿担当者

巻頭言 渡辺真悟 3月第1例会レポート 平野 実郎

税法って難しい!?

山 川 潔

寒さもだいぶ和らいでいよいよ春?と思いきやちょっと暑いですね。皆様いかがお過ごしでしょうか。山川は損害保険の事故対応に追われて昼夜を問わず走り回っております。まるで毎日「鉄人レース」チャレンジしているような風ですね。

この時期は「確定申告」の時期でもあります。皆様はすでにお済みでしょうか。まだという方はそろそろネジを巻いていかないと間に合わなくなるかも。半田青色申告会の会長を今期で交代する身としては、最後のご奉公で確定申告会場へボランティアとして赴いて「会計を制する事は自社事業を制する事とほぼ同じでは?」などと偉そうなことを言いながら青色申告の普及に汗をかいております。

今年の所得税は変更内容が多く対応に苦慮しております。仕組みが複雑で理解するのにそこそこの時間と頭を取られます。それを会場にいらっしゃる皆様に説明して理解していただいた上での申告ですので まあ手間がかかりますよね? でも申告をしないと終わらないので頑張るしかないのです。その上で青色申告の重要性を説いています。税法って難しいです。

名古屋ワイズ ホームページとフェイスブックの紹介

名古屋ワイズメンズクラブの様々な情報はパソコンからは <https://nagoya-club.wixsite.com/toppage>
FACEBOOK : 名古屋ワイズメンズクラブと検索スマホからは 1p 表題にある QR コードをスキャンすれば見ることが出来ます。一度覗いてみて下さい

クラブ出席		2月 個人出席						イベント出席		
氏名	第1	第2	氏名	第1	第2	氏名	第1	第2	ゲスト(敬称略) (講師) 佐味健志、瀬川景子	
在籍(1名功労・広義会員)	17名								入会: 千賀 将	
第1例会	10名									
メネット	名									
ゲスト・ピジター	1名									
第2例会	9名									
メネット	0名									
ゲスト・ピジター	0名									
メーキャップ	3名									
出席率	81%									
○出席 Rリモート出席 Mメーキャップ										

■■■ 第 1 例会レポート ■■■

と き：2026年2月10日(火) 19:00.~20:30

ところ：名古屋 YMCA

2月10日(火)名古屋YMCA5階チャペルにて第一例会を開催しました。今回は、国際飢餓対策機構ハンガーゼロより佐味健志氏をお迎えし「世界の飢餓の現状とその原因、そして私たちにできること」をテーマにお話しいただきました。卓話では、世界で約6億7,300万人もの人々がいまま飢餓に直面している現状が紹介されました。数字としては前年より改善しているものの、アフリカや西アジアでは慢性的な飢餓が増え続けている地域もあります。また、一定期間でも十分な食料を得られない人は、世界で約23億人にのぼると言われています。飢餓や貧困の背景には、戦争や気候変動、政治の不安定さ、経済構造、教育格差といった複数の要因が複雑に絡み合っています。

海外の事例だけでなく、日本においても子どもの7人に1人が相対的貧困状態にあるとされ、私たちの身近な課題であることが示されました。ハンガーゼロでは、「飢餓をなくす」というSDGs目標のもと、子どもや妊婦の栄養改善、小規模農家の支援、持続可能な食料生産の確立などに取り組んでいます。活動の柱として、子どもを支える「チャイルド・サポート」、地域の人々が主体となる「VOC(ビジョン・オブ・コミュニティ)」、そして戦争や災害時の「緊急支援」の三つを大切にされています。名古屋YMCAでは、ワイズの方々と協力し、

相対的貧困状態にある子どもたちも参加できる「学童キャンプ」を実施しています。世界規模の課題と、私たちが地域で行っている活動とがつながっていることを改めて考える機会となりました。また、今後の例会で紹介予定の中村哲氏の活動は、医師でありながら、水路建設を通じて人々の健康と農業を支え、貧困の解決に取り組む姿が、多くの示唆を与えてくれます。活動の形は違っても、「飢餓をなくし、人々のいのちと暮らしを守る」という思いは共通しています。参加者にとって、世界と地域、そして自分たちの行動を見つめ直す、実りある時間となりました。

その後は久しぶりのそれも若い会員の嬉しい入会式。また今月はいじめを無くそう運動であるピンクシャツデーの活動月間でもあるので 最後には皆さんが何かピンクのものを身につけて写真を撮りました。(中井信幸)



会計より会費納入のお願い

会費は月額7,000円、年額84,000円です。できるだけ6ヶ月分42,000円を7月と1月に納入して下さるようお願いいたします。(3ヶ月ずつ納入される方は7月、10月、1月、4月に納入して下さい)

ゆうちょ銀行 記号 12120 番号 82306781

なまえナゴヤワイズメンズクラブ

ブリテン委員よりお願い

各号に例会以外の活動報告を掲載しておりますが、全て当委員で把握出来ておりませんが、ワイズやYMCA関係の行事に参加された方は、その旨ブリテン委員にお知らせください。よろしくお願いいたします。

第一例会 講師プロフィール

三枝 隆氏



東京 YMCA 社会体育・保育専門学校卒業

1983 年度から、奈良 YMCA 体育野外事業部に従事、2000 年度から 6 年半名古屋 YMCA にて、ウエルネス事業・幼稚園事業に従事。2007 年度から奈良 YMCA 体育野外事業部長職などを経て、2015 年度から 6 年間、代表理事・総主事（社福：副理事長兼務）として従事。2021 年度より名古屋 YMCA 『三重エリア責任者』として、三重 YMCA 再生業務に着手、2024 年度から他企業と共に「鈴鹿青少年センターと鈴鹿青少年の森の整備運営事業（PFI）」に参画し、『スズカト（三重県立鈴鹿青少年センター）』にて、プログラム責任者として、利用者（団体）へのプログラム提供・企画プロデュースを担当している。今回は、これまで私を導いていただいた方々への感謝の気持ちと現在取り組んでいる『担当業務』、『ピックルボール』普及へ向けてのお話をさせていただきます。

第 2 例会レポート

と き：2026 年 2 月 16 日（月）19：00～20：30

ところ：オンラインにて

○3 月以降の例会 内容

3 月例会 3 月 10 日（火）19：00～

卓話者：三枝 隆氏

（名古屋 YMCA スタッフ；スズカト担当）

演 題：「導かれて…スズカトにて」 担当：中井ワイス

4 月以降の候補

- 牧野和博さん 入会候補者 元名古屋ワイス担当主事
- DVD 鑑賞 「希望の灯を灯す」故中村 哲氏の記録（DVD 手配：加藤ワイス）

○次期中部の体制について（次期中部部長：川本）

- 3 月 7 日（土）次期会長・主査研修会が開催され、次期に向けて具体的な準備が始まる。
- この研修会終了後、次期中部準備役員会（仮称）を計画する。キャビネットはじめ名古屋クラブメンバーの協力を要請する。
- 中部部会の概要

日 時：2026 年 10 月 31 日（土）

会 場：スズカト（三重県立鈴鹿青少年センター）

※部会に併催する形で YYY フォーラムを計画。名古屋 YMCA リーダー OB・OG を中心にしたユースにも準備段階から関わっていただけるよう、現在協力要請中。

○根の上を愛する会への寄付金について

- 「根の上を愛する会」の解散が報告され、根の上キャンプ場の閉鎖に伴う最終処分を名古屋 YMCA にて実施することが決定した。解体費用など 300 万円強が必要になるため、「根の上を愛する会」が募金活動中。名古屋 YMCA をサポートするクラブとしてのスタンスで名古屋ワイズメンズクラブから一定の寄付を行なうと同時に、歴史ある名古屋 YMCA 根の上キャンプ場に愛着を持っておられる個人に対しても募金の呼びかけを実施する。クラブとしての募金の可否や具体的な金額の決定は 3 月第一例会にて実施する。（募金呼びかけ担当：加藤会長、渡辺ワイス）

○その他

- 西日本区次期会長・主査研修会：3 月 7 日（土）12：20～ホテルクライトン新大阪
- 3.11 東日本大震災犠牲者追悼式あいち：3 月 11 日（水）14：00～鶴舞公園普選壇
- 名古屋 YMCA リーダー感謝会：3 月 22 日（日）16：00～南山ファミリー YMCA
- ワイズ東日本区大会：6 月 6 日（土）石巻市河北総合センター
- ワイズ西日本区大会：6 月 13 日（土）なら 100 年会館・ホテル日航奈良

（川本龍資）



Menettes of Nagoya Y's Men's Club

今月の聖句

「心の貧しい人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである。」

(マタイによる福音書 5:3)

西村 清

(2月号からの続き)

ここで心と訳されている言葉は、霊、息、命とも訳される πνεύμα プニューマというギリシア語です。心、霊、息、命、それらの意味を合わせ持つプニューマ、それが貧しい人。どのような人を連想することができるでしょうか。自分を誇りうる何ものをも見いだせない人、自分で自分を信頼できない人、自分の生きている価値を見いだせない人、そのような人が、どうして幸いだと言えるのでしょうか。天の国はその人たちのものだからだということです。死んだ後で天国に迎えられます、などという意味ではありません。聖書の世界では、天というのは神のおられるところとして思い描かれています。そうすると、天の国というのは、神さまと共にいることと言いかえることができます。

神さまは、そのような人間を必要とされているのです。「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである。」主イエス自身、弱さを抱える者に神さまが与えられる祝福を共に分かちあう生涯を歩まれました。時の指導者からどんなに妨害されることがあっても、社会の周辺においやられた者と共に生き続けられました。

石川正一さんは次第に動けなくなっていく中で、生きる意味を求めて、模索し続けられ、その辿られた心の軌跡をノートに記録しつづけられました。やがては自らペンを握る力もなくなり、正一さんが口で話されることを、母親がノートに書き取られるようになります。その一部にこのように書かれています。

「神さまの台本に従うということは、成り行きまかせに生きることではない。精一杯生きる中から、台本の全容が次第に見えてくる。死の受容とは諦めることではない。残り時間を大切に生きること、よりよき死を迎えようとする、新たな生の歩みを意味する。

筋ジムの人生を、神さまから選ばれて与えられたと信じているからこそ、懸命に生きた結果を、神さまに委ねるといふ信仰が成立する。

(石川正一『めぐり逢うべき 誰かのために』立風書房 253頁)

神さまが今のままのわたしたちを必要とされている。他の誰も期待しないとしても、自分ですら自分に期待できなくなってしまったとしても、神はわたしたちを必要とされ、わたしたちと共に歩むことを期待しておられるのです。

.....

YMCA ニュース

ピンクシャツデー

今年は2月25日(水)がピンクシャツデーです。皆さんもご存じの通り この日はカナダで起こった出来事をきっかけに始まった「いじめをなくすための啓発運動」です。ある男子学生がピンク色のシャツを着て登校したところ、「ホモセクシャルだ!」とからかわれ、いじめを受けました。その話を聞いた先輩たちがSNSで「ピンクのものを身に着けて登校しよう」と呼びかけたところ、翌日、学校中がピンク色に染まり、自然といじめはなくなってきました。今年のテーマは「あなたなら どうする?」です。いじめや差別を「誰かの問題」として見過ごすのではなく、自分だったらどう行動するのかを考え、一歩踏み出すきっかけにしてほしいという願いが込められています。周りで困っている人を見かけたとき、声をかける、助けを呼ぶ、

そっと寄り添う——。一人ひとりの小さな選択や行動が、安心して過ごせる社会へとつながっていくことを伝えたいと考えています。とはいえ、頭では分かっている、勇気が出ず踏み出せないのが現実です。そんな中、先日、大阪YMCA時代のリーダーが名古屋に遊びに来てくれ、現在火力発電所の施設で働いている彼がとても心に残る話をしてくれました。「長く働いていると、周りの大人はゴミが落ちていても見て見ぬふりをする(火力発電の施設なので燃えるゴミは厳禁)。困っている同僚がいても、帰宅を優先して見て見ぬふりをする。でも俺はYMCA出身だから、そんなことはできへん。YMCAの血が、まだ流れてるんやなあ」このような思いが、世の中にもっと広がっていくと素敵だと思います。ピンクシャツデーが、その一つのきっかけになることを願っています。(中井信幸)